

シギ・チドリ類調査 ニュースレター



2024年度春期概要

環境省自然環境局生物多様性センター / NPO法人バードリサーチ

モニタリングサイト1000シギ・チドリ類調査 2024年度春期調査結果の概要

全国107ヶ所のサイトで参加

2024年度春期調査は、2024年4月1日から2024年5月31日までの期間実施しました。全国107サイト（暫定値）で調査を実施し、このうち一斉調査（2024年4月25日を基準日とした前後1週間の調査）には98サイトが参加しました。一斉調査期間では、シギ・チドリ類44種25,239羽のほか、ツクシガモ147羽、ヘラサギ21羽、クロツラヘラサギ212羽、ズグロカモメ1羽が記録されました。春期の全サイトの最大個体数（調査期間内に記録された各種個体数の最大値）の合計では、シギ・チドリ類53種54,995羽のほか、ツクシガモ1646羽、ヘラサギ57羽、クロツラヘラサギ412羽、ズグロカモメ126羽が記録されました。

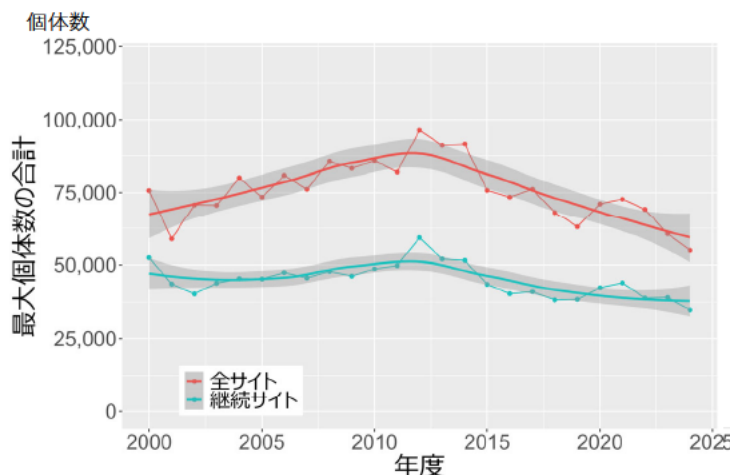


Fig.1. 春期調査における全サイトと継続サイトの最大個体数合計の推移（2000年度から2024年度の全サイトN=107,継続サイトN=33） 年次変動の大きい海上生活者のヒレアシシギ類は除外。

全サイトの春期の個体数は3年連続減少

2000年度春期以降の「全サイト」と「継続サイト（2000年から調査を継続しているサイト）」のそれぞれの最大個体数の合計を、ヒレアシシギ類（年次変動が大きく、海上生活者であるため）を除いてグラフに示しました（Fig.1）。全サイトには廃止済のサイト・新規サイトが含まれるため、継続サイトとは傾向が異なる場合があります。調査年の実績を示すために全サイトを、経年変化を把握するために継続サイトを解析しています。最大個体数の合計を前年度春期と比べると、全サイトでは5,671羽減少し54,990羽、継続サイトでは4,253羽減少し34,801羽となりました。全サイトは過去3年連続で減少しました。また全サイト、継続サイトはともに、今回は2000年以降最少数を記録しました。

前年に比バトウネンの個体数が減少

最大個体数における個体数上位5種は、ハマシギ（46.6%）、チュウシャクシギ（12.4%）、トウネン（10.4%）、キアシシギ（5.6%）、ダイゼン（4.5%）となりました（Fig.2）。上位10種では、10位のオオソリハシギ以外は前年と同じ構成で、全体の半数をハマシギが占める傾向は例年と同じでした。それぞれ全体の約10～12%を占めるトウネンとチュウシャクシギは、前年に順位が入れ替わりましたが、今回再び入れ替わりました。他にミユビシギ、オオソリハシギが順位を上げ、メダイチドリ、ムナグロが下げています（Fig.3）。

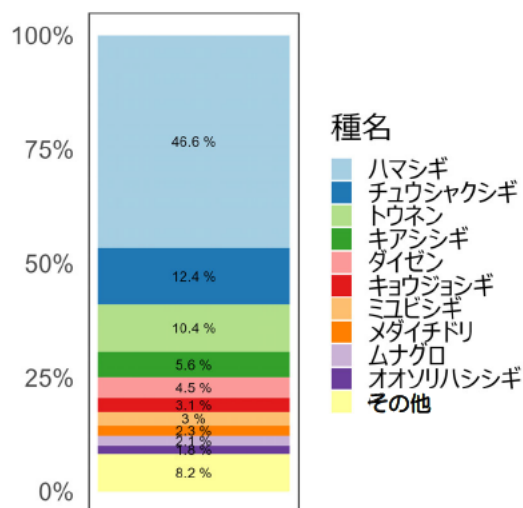


Fig.2. 2024年度春期調査における種構成比

トウネンが大きく減少

種別の最大個体数の前年比較では、増加数ではダイゼンが105羽と最も増加しました（Table 1 左表）。減少数ではトウネンが最も減少し、-1,500羽（約21%減少）でした（Table 1 右表）。個体数上位10種の個体数合計では、減少数4,129個体に対して、増加数は174個体となり、上位種で減少数が大きい種が目立ちました。また、増加率では、タカブシギ（約2倍）、セイタカシギ（約1.2倍）が高く、減少率ではオバシギ（約75%減少）、ウズラシギ（約72%減少）が高くなっていました。

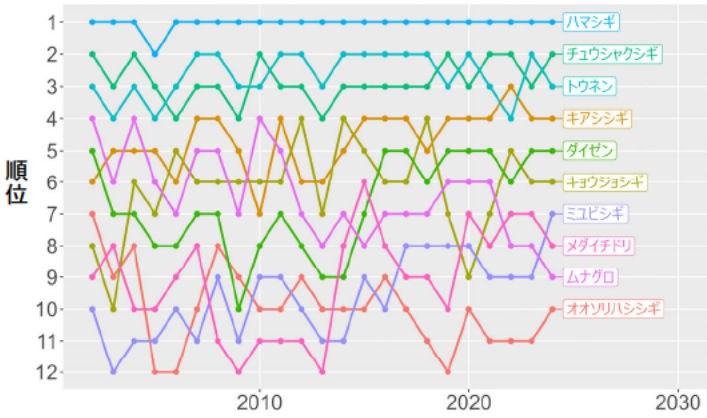


Fig.3. 2024年度春期調査における最大個体数上位10種の順位の変化(2000年度から2024年度)

Table1. 2024年度春期における種別の最大個体数の前年差 左表:増加上位5種、右表:減少上位5種

2024年度春期最大個体数 増加数上位 (全サイト)					2024年度春期最大個体数 減少数上位 (全サイト)				
種名	2023年度春	2024年度春	前年差	前年比	種名	2023年度春	2024年度春	前年差	前年比
ダイゼン	2,352	2,457	105	1.04	トウネン	7,226	5,726	-1,500	0.79
タカブシギ	84	162	78	1.93	ハマシギ	26,551	25,617	-934	0.96
ミコビシギ	1,554	1,623	69	1.04	キアシシギ	3,654	3,075	-579	0.84
セイタカシギ	143	178	35	1.24	ムナグロ	1,603	1,180	-423	0.74
ツバメチドリ	7	19	12	2.71	アオアシシギ	1,303	924	-379	0.71

上位のサイトで減少

50羽以上観察されたサイトのうち最も個体数が多かったサイトは例年と同じく大授^{おおいにやがみ}掬（佐賀県）で、2位の中津干潟（大分県）の約4倍の記録がありました。個体数の大きい大授掬、中津干潟、三番瀬（千葉県）の並びは、前年と同様でした。また上位には、九州6サイト（大授掬、中津干潟、白川河口、氷川、不知火干潟、早津江川河口）、北海道2サイト（野付崎・尾岱沼、風蓮湖）、東京湾（三番瀬）と伊勢三河湾（藤前干潟）で各1サイト含まれ、九州の中でも有明海周辺のサイトの個体数が多く記録されました（Table 2）。また、前年比較では、上位10サイト中、上位3サイトと、氷川（熊本県）、藤前干潟（愛知県）が減少しており、特に藤前干潟は約23%の減少となっていました。一方で、野付崎・尾岱沼、風蓮湖の二つの北海道のサイトが増加していました。今年度の春期調査では、個体数上位のサイトと個体数上位の種の減少が大きい状況が確認できました。

Table 2. 2024年春期における最大個体数上位10サイト

2024年春期最大個体数 上位10サイト				
サイト	2023年春	2024年春	前年差	前年比
大授掬	15,988	14,940	-1,048	0.93
中津干潟	4,229	3,991	-238	0.94
三番瀬	3,125	2,507	-618	0.80
白川河口	1,641	2,098	457	1.28
野付崎・尾岱沼	1,364	1,853	489	1.36
風蓮湖	1,379	1,754	375	1.27
氷川	1,767	1,729	-38	0.98
不知火干潟	1,498	1,718	220	1.15
早津江川河口（川副町）	1,076	1,686	610	1.57
藤前干潟	2,048	1,587	-461	0.77

モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類調査 ニュースレター タイトル写真:メダイチドリ(守屋年史)
2024年度 春期概要

発行元: 環境省自然環境局生物多様性センター <https://www.biodic.go.jp/moni1000/>
編集: 特定非営利活動法人 バードリサーチ <http://www.bird-research.jp/>
編集者 守屋年史 電話/Fax:042-505-4044 メール: shigichi@bird-research.jp